

松山幸雄（1930—1921）

朝日新聞論説主幹

石橋湛山とケネディ —— 歴史から何をまなぶか？

“私は長いこと政治外交記者をしている間に、「歴史の曲がり角」といえる突発的重大事件に、二度遭遇（そうぐう）した。”

“「石橋湛山政権の突然の終焉」と「ケネディ暗殺」である。”

“軍部と闘い、進駐軍と闘い、党内の「反中共派」と闘い、いよいよ本物の自由主義内閣「石橋丸」の船出というの神様はなんという残酷な仕打ちをするのか、と私などは腹が立って仕方なかった。東条内閣の閣僚だった岸氏が「デモクラシーの旗手」になるというのは、あまりにも筋の通らない話ではないか。。。“

（自由思想、第158号、2020年10月）。

原則

徹底的個人主義

- 個人の生活が一切基礎である
- 人間として、生きる為、町をつくり、国民として団結して国家をつくる。
- それは人間として生きる為である。決して国民として生きる為でもない。

民族自決

- ロシア革命(中共革命): 革命は国民の自由。 選択範囲: 権威主義、共産主義、ファシズム、資本主義、統制経済、など
- 大日本主義・小日本(大欲を満すが為めに、小欲を棄てよ)
- 排日侮日、不拔きの怨恨: 支那・朝鮮に対する態度を根本的に改めなければ駄目である。

規則

“Each Generation must break through the crust of convention...”

“:それぞれの世代は 既存の慣習の壁を打ち破らなければならぬ。”

Richard Rorty: Achieving America

石橋湛山・(松尾尊兌)

[人間は]既存の国家、社会、経済、宗教、思想などの支配下にある。これらはある時代の人間の生活の必要上形成されたものであるが、新時代の生活様式に応じて制度や思想が**桎梏**(しっこく)になる。個人は積極的にこれらの桎梏と闘わなければならぬ。”

(石橋湛山評論集、松尾尊兌編) **桎梏**= Fetters, Bonds

pp 295-296

John Dewey (1859–1952)

Freedom and Culture (1939)

The power of man over physical nature should be employed to reduce, to eliminate progressively, the power of man over man.

物理的自然に対する人間の力は、人間に対する人間の力を減らし、徐々になくしていくために使われるべきです。

We must prevent the use of modern technology as a more powerful means of subjection of men to other men

私たちは、現代のテクノロジーが、人を他の人に支配させるより強力な手段として使われることを防がなければなりません。

五箇条の御誓文

- 広く会議を興し、万機公論に決すべし。

【広く会議ヲ興シ万機公論ニ決スベシ】

- 上下心を一にして、さかんに経綸を行うべし

【上下心ヲ一ニシテ盛ニ経綸ヲ行フベシ】

- 官武一途庶民にいたるまで、おのおのその志を遂げ、人心をして倦まさらしめん事を要す

【官武一途庶民ニ至ル迄各其志ヲ遂ケ人心ヲシテ倦マサラシメン事ヲ要ス】

- 旧来の陋習を破り、天地の公道に基づくべし。

【旧来ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基クベシ】

- 智識を世界に求め、大いに皇基を振起すべし

【智識ヲ世界ニ求メ大ニ皇基ヲ振起スベシ】

<p>愚かなる神宮建設の議 (29歳)</p>	<p>大正元年9月 p. 29</p>	<p>僕は明治年代をこう見たくない。而してその最大事業は、政治、法律、社会の万般の制度および思想に、デモクラチックの改革を行ったことにあると考えたい。。。。</p> <p>僕は一地に固定してしまうような“けち 臭い”一 木造石造の神社などいうものを建てずと、「明治賞金」を作れと奨めたい。</p>
<p>一切を棄つるの覚悟 (36歳)</p>	<p>大正10年7月23日 P. 94</p>	<p>我国の総ての禍根は。。。小欲に囚れていることだ、志の小さいことだ。大欲を満すが為めに、小欲を棄てなければならない。</p>
<p>死もまた社会奉仕</p>	<p>大正11年2月11日 p. 125</p>	<p>しかし、いかに至誠から出で、いかに考えは正しくも、一人の者が、久しきにわたって絶大の権力を占むれば、弊害が起る。</p>
<p>婦人を社会的に活動せしめよ (39歳)</p>	<p>大正13年7月5日 p.135</p>	<p>我が国の婦人の力を有効に働かせるについては、婦人 参政権など、むずかしき問題を論ずる前に改良すべき多くの事がある。例：母親は保護者として認識されていない。夫の許可なき妻は購買組合員にならない。。。</p> <p>婦人に参政権を与えよとの声が、実際政治家の間に起ったことは、我が国の大進歩であるが、しかしそれらの主張者にしてもし真面目にこの問題を考うるならば。。。我が婦人の位地についての理解を深むる必要がある。</p>
<p>いわゆる軍人の政治干与 (55歳)</p>	<p>昭和15年2月24日 p. 207</p>	<p>今日の我が政治の悩みは、決して軍人が政治に干与することではない。逆に政治が、軍人の 干与を許すが如きものであることだ。黴菌が病気ではない。その繁殖を許す身体が病気だと知るべきだ。</p>
<p>更生日本の針路 -前途は実に洋々たり (60歳)</p>	<p>昭和20年8月14日 p.257</p>	<p>昭和二十年八月十四日は実に日本国民の永遠に記念すべき新日本門出の日である。。。。</p> <p>然らば即ち如何なる悪条件の下にも、更生日本の前途は洋々たるものあること必然だ。記して以て更生日本の門出を祝す辞となす次第である。</p>

<p>投機 (58歳)</p>	<p>昭和18年1月 9日-23日</p>	<p>—人間のみの特性 (特性は必ず善性ではないが。。。) —未経験世界は言葉の通り経験せざることは出来ない。。。ここに人間は思考を用い過去の経験を利用し新世界の性質を出来る限り正確に見定めることを努力する。。。 —以上は企業の投機に就て述べたのだが、次ぎに。。。商品又は株式等の相場の投機は如何。 これにより、通常は需要と供給が調整される市場が形成されます</p>
<p>大蔵大臣 衆議院財政演説</p>	<p>昭和21年度</p>	<p>“国家財政の目的、ことに今日のわが国のごとき場合のそれは、なによりもまず第一に、国民に業を与え、産業を復興し、いわゆるフル・エンプロイメントを目指して国民経済を推進することにあると考える。いかに財政収支は均衡を示しても、国内に失業者があふれ、多くの生産要素が遊休状態におかれる有様では、これを真の健全財政とは、決して称することはできないと考える。...”</p>
<p>プレスクラブ演説 (外人記者クラブ) (72歳)</p>	<p>昭和32年1月25日 P.262</p>	<p>“私は、もちろんいかなる主義主張に対しても、もしそれが人類の幸福を増進するに役立つものであることが証明されるならば、これを忌み嫌う理由はないと信じます。” “他国から何らかの力をもって、さようの独裁専制政治を押しつけられることになっては、あくまでこれに反抗しなければなりません。” “だが、さようの危険のない限り、たとい共産主義を国是とする国であろうとも、私は共存共栄の道を歩んで行くべきだと思います。” “私は世界の貿易と国際投資の自由なる増進は、単に経済的の発展のみならず、平和の増進のため不可欠の条件であると考えます。しかるに現在の世界の貿易は multinational でなく bilateral の建前になっているため、自由貿易の実行が不能に陥り、従って貿易の増進が妨げられ、国際投資もまた制約を受けざるをえません。” “世界の实状から判断して、国の独立安全を保つに必要な最小限の防衛力はこれを備える国際義務を日本国民は負うものであると信じます。”</p>
<p>日本防衛論 (84歳)</p>	<p>昭和43年10月5日</p>	<p>ソ連の軍隊がチェコに侵入した事件—国家の独立と安全をどうして守るかという問題を、改めて考慮してみるきっかけ。</p> <p>国連はまるで無能無力のように悪口をいうものがあるが、私はそうは思わない。</p> <p>国連の働きが満足すべきものであったとはいえないが、第二次大戦後の国際紛争処理に果たした役割はそれなりに評価しなければならぬ。</p>

山中湖の経済倶楽部

秋葉 武定	プラスチック工業	瀬川美能留	野村証券
伊藤 精七	丸三貿易	田中 真二	東京証券取引所
石川 昇一	加商	田中 次郎	キルビー学院
石川 秀二	石川匠務所	田林 政吉	日本長期信用銀行
石橋 湛山	衆議院議員	田宮 操	田宮工業
石橋 湛一	三菱銀行	高橋 亀吉	経済評論家
小川 三郎	第一証券	竹中 治	日東商船
小笹 徳蔵	清水建設	恒吉 正久	日産火災海上保険
小汀 利得	日本経済新聞	中瀬 宏通	公認会計士
岡本達三郎	日本長期信用銀行	中村 定弘	中村塗装店
加賀谷小六	共同建物	行方 直夫	保土谷化学
鏡山 忠男	白木屋	西 武雄	日本高級金属工業
金田 信武	金田商店	野口愛次郎	清水建設
神谷 竜	鹿島建設	原田 耕治	
神崎 丈二	東光電気工業	深尾 清吉	宝幸水産
河合 良成	小松製作所	藤本幸太郎	一橋大名誉教授
北浦喜一郎	野村証券	水上 達三	三井物産
小島 三雄	鹿島建設	宮尾 英雄	日本長期信用銀行
桜田 武	日清紡績	宮川 三郎	東洋経済新報社
沢崎英一郎	新和運輸	宮崎 一雄	日本長期信用銀行
清水 毅	弁護士	山崎 種二	山種証券
清水 康雄	清水建設	山田 貞雄	日本甜菜製糖
椎名 幸助	野村証券	綿野 脩三	東洋経済新報社
島田 英一	日東紡績		

昭和48年4月27日・池上本門寺でのお通夜― 追悼演説

桜田武 (1904-1985) 日清紡績社長、日経連会長 "ミスター日経連"

太田薫 (1912-1998) 元日本労働組合総評議会議長
"労働者がステーキ食える世の中にしなきゃ。。。"

石田博英 (1914-1993) 衆議院 自民党

宇都宮徳馬 (1906-2000) 衆議院 自民党

森 恭三 (1907-1984) 記者 朝日新聞

中山伊知郎 (1898-1980) 一橋大学初代学長

市川房江 (1893-1981)

“昭和31年12月自民党の総裁に当選、総理に就任された時には、自民党もいづらか変わるのではないかと喜び、お祝いを申し上げたのですが、間もなく病気で辞任され、自民党のタカ派の岸さんがあとをつぐことになり、誠に残念でした。

しかしそのやめっぷりは立派で、流石に石橋さんと敬服しました。

「1973」4月27日夜の池上本門寺でのお通夜には、足が少々いたく、スト中で往復に三時間もかかりましたが参上し、ごめいふくを祈念しました。“

SILICON VALLEY GENEALOGY

47 85 87 89 91 92 93 94 95 97 98 99 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86

